

第6学年1組 体育科学習指導案

日 時：令和7年11月12日（水）第5限

指導者：教諭 達 航平（石崎小学校）

外部講師 能上 美喜子

（がん安心サポートハウス つどいの場 はなうめ）

場 所：6年1組教室

1 単元名 病気の予防～病気への理解と共生～

2 単元の目標

- ・病気の予防や病気との共生について理解することができるようとする。 [知識及び技能]
- ・病気の予防や病気との共生について課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現することができるようとする。 [思考力、判断力、表現力等]
- ・学習活動に粘り強く取り組む中で、健康の大切さに気付き、病気の発生要因や予防の方法、病気との共生についての学習に進んで取り組むことができるようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入ることを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適度な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④がん患者の生活や心情について考え、自他の健康や命の大切さについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①病気を予防や病気との共生についての課題を見付け、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。</p>	<p>①健康・安全の大切さに気付き、病気の予防や病気との共生についての学習に粘り強く、進んで取り組もうとしている。</p>

4 指導に当たって

（1）教材観

本単元「病気の予防」は、健康な生活を送るために不可欠な知識と実践力を育む重要な単元である。この時期の児童は、病気の原因や予防法について科学的な根拠に基づいた理解を深めることができる段階にある。教材では、感染症や生活習慣病の予防を主軸に、具体的な事例を通して病気の原因や予防法を考えさせることができる。がん教育に関して、現在、がんは日本人の死因の第1位を占める病気であり、およそ3人に1人ががんで亡くなっている。また、生涯のうち2人に1人が、何らかのがんにかかると推計されており、重要な健康課題の一つである。また、がんは、命に関わる病気だが、医学の急速な進歩により、早期に発見し、適切な治療をすれば、治らない病気ではなくなってきていく。しかしながら、がん検診の受診率が上がらないことや、がんは未だ「不治の病」などといった、がんに関する誤った認識が根強く、必要以上に不安や恐怖を感じたり、がん患者やその家族への偏見につながったりしている。このようなことから、学校教育活動全体で健康教育の一環として「がん教

育」を推進することは、児童が生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育むことや将来、身近な人が病気になったときに寄り添って生きていく力を育む良い機会になると考えられる。

(2) 児童観

別添のがん教育に関するアンケート結果より、がんの学習に関しては肯定的な回答が見られた。また、がんに関する基本的な知識も概ね理解していると言える。しかし、「自分はがんにならないと思うか」の質問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童が44.4%と、自分事として捉えていない児童が多くいた。また、「体の調子が良い場合は、定期的に検診を受けなくても良い」の質問に対し、「正しい」と回答した児童が27.8%と健康診断に関して正しい知識を身に付けていない児童もいた。日頃の生活アンケートでも生活リズムが整っていない児童が一定数いるため、生活習慣を整えることや自身の健康への意識が低い児童がいることが伺える。

(3) 指導観

単元の導入では、アンケート結果を提示し、自身の健康と周りの人が病気になったときにどのように寄り添って生きていくのかということに関して、興味関心を高め、自分事として考えられるようにする。単元ゴールには、「病気への理解と共生」をテーマとして考えたことを作文し、保護者に伝えるという課題を設定することで主体的に学ぶ姿を期待したい。そして、単元を通して児童一人一人が自分事として捉え、学習を進められるように工夫していく。児童は、病気の起り方や感染症の名称、その予防法などは生活経験からある程度の知識があると考えられるため、興味関心は高いだろう。授業では、実際の経験と結び付けながら正しい知識を確実におさえられるようとする。また、教科書に記載されている「先進国の人口当たりの結核にかかった人の数（日本は上位）」やがん教育ハンドブックに記載されている「がん検診受診率」のデータも示し、日本人が世界の人々と比べて健康に対する意識が低いこともおさえることで、自他の健康や命を守るために大切なことは何かを気づかせたい。

第二次の第5時では、がん経験者から闘病中の生活や心情について話を聴いたり、質問したりする時間を多く設けたい。そして、「もし、身近な人ががんになつたらどのように接していくか」の観点でじっくりと考え、交流する時間を設けることで、多様な考えに触れ、自他の健康や命の大切さについての理解を深められるようとする。第6時では、学んだことを自分事として考えるために作文する。

なお、指導にあたり、児童一人一人の家庭内の状況や発達段階を考え、精神的な負荷が大きくならないように配慮して行っていく。

5 指導と評価の計画（6時間）

次	時	主な学習活動	・評価規準 【評価方法】
一	1	・病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることについて理解する。	・知技①【発言・ワークシート】
	2	・感染症の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めること、感染症にかかつたら早めに治療を受け、安静にすることで回復を早めることが必要なことについて理解する。	・知技②【発言・ワークシート】
	3	・心臓病や脳卒中などの生活習慣病の予防には、適切な運動を行い、栄養の偏りのない食事をとることなど、望ましい生活習慣を身につける必要があることについて理解する。	・知技③【発言・ワークシート】
	4	・虫歯、歯周病などの生活習慣病の予防について、課題を見つけ、その解決について話し合う。	
二	5	・がん教育外部講師の話を聞く。 ・グループで「身近な人ががんになつたらどのように接していくべきよいか」について協議をする。 ・「がん」についての理解と共生について考えたことをワークシートに書く。	・知技④【発言・ワークシート】
	6	・保護者に向けて、「病気への理解と共生」について、考えたことを文章にまとめる。	・思判表①【作文】 ・態度①

6 本時の学習（5／6時）

(1) ねらい

がん患者の生活や心情について考え、自他の健康や命の大切さについて、理解することができる。

(2) 評価規準

がん患者の生活や心情について考え、自他の健康や命の大切さについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【知技④】

(3) 展開

配時	学習活動 ○主な発問・児童の思考の流れ	○手立てや留意点 ○評価（評価方法）
5	<p>1 前時までのがんについての学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時までに学んだことを振り返りましょう。 ・日本人の死因の第一位の病気だったね。 ・現在、日本人の二人に一人ががんにかかり、三人に一人が亡くなってしまう怖い病気だよ。 ・体の細胞ががん細胞に変化して起こる病気だったよ。 ・生活習慣が良くなかったら、なってしまう可能性もあるんだったね。 ・がんは早くに見つけて治療すると治ることもあるよ。 <p>2 本時の課題を確認する</p> <p>もし、身近な人ががんになったらどのように接していくべきよいかな</p>	<p>○既習を想起することで、本時の学習意欲を高める。</p>
20	<p>3 がん教育外部講師の話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ①病名 ②告知時の年齢 ③告知されたときの気持ち ④治疗方法 ⑤つらかったこと ⑥告知前とその後の生活の変化 ⑦周りの人に支えてもらって嬉しかったこと ⑧子供達に伝えたいこと <p>4 がん教育外部講師へ質問をする</p> <p>○話を聞いて、もっと知りたいことや疑問に思ったことを質問しましょう。</p> <p>予想される質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・告知されたときは辛かったと言っていましたが、どうやって前向きな気持ちに切り替えたのですか。 ・治療中に辛くてやめたくなったときはありましたか。 ・がんの治療中に、周りの人にされて良かったことや嬉しかったことはありますか。 ・がんになった人がいたときに、わたしたちはどんなことをしたら良いと思いますか。 <p>5 グループで話し合う</p> <p>○もし、身近な人ががんになったらどのように接していくべきよいか話し合いましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて、あまりかわいそうだとかは思わずについつも通り接しようと思ったよ。 ・なるべく多く会って楽しい時間を過ごせるようにしたいな。 ・相手の気持ちを尊重して接していくこうと思ったよ。 	<p>○日本人の二人に一人ががんにかかるという現状や「小児がん」など具体的な病名を提示し、自分事として考える意識を高め、課題へつなげる。</p> <p>○場合によっては補足の資料を提示し、理解を促す。</p> <p>○外部講師の話の内容を板書する。</p> <p>○課題に立ち返る発問をすることで、共に生きていく場合を考えて質問できるようにする。</p> <p>○友達と交流する価値を伝えることで、多様な考えに触れようとする意欲を高める。</p>
10		

10	<p>6 振り返りをする</p> <p>○今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて、やっぱりがんと知ったときはショックが大きかったと言っていたけど、そこからポジティブに考えようとする気持ちがすごいなと思いました。 ・がんになってしまった人みんなが前向きではないと思うので、その人の気持ちを考えて行動しようと思いました。 ・がんは早期発見で治る可能性があるという話があったので、自分のお父さんやお母さんにもすすめたいと思いました。 	<p>○①身近な人ががんになったらどのように接していくか ②今日の授業から身近な人にどんなことを伝えたいか 上記の観点で振り返りを書くように伝える。</p> <p>○振り返りを発表させ、多様な考えに触れる機会を設ける。</p> <p>○がん患者の生活や心情について考え、自他の健康や命の大切さについて、理解したことを言ったり書いたりしている。(発言・振り返りシート)</p>
----	---	---

7 板書計画

<p><もし、身近な人ががんになったらどのように接していくべきか></p>					
外部講師の紹介	治療方法	告知前とその後の生活の変化	児童に伝えたいこと	病名 告知時の年齢 告知されたときの気持ち	闘病中に辛かったこと 周りの人に支えてもらって嬉しかったこと